

第25回

宗教倫理学会学術大会

*The Twenty-fifth Conference of
the Japan Association of Religion and Ethics*

2024年10月19日(土) 9時25分開会(受付開始は9時)

関西大学千里山キャンパス 第1学舎4号館 D401教室

□ 研究発表 9:30~10:35

1. 岡谷和作(ダラム大学) ※オンライン発表
キリスト教における神の予知と信仰の自由—中間知識の可能性と課題を巡って—
2. 佐藤啓介・横濱佑三子・岸根紗葵(上智大学)
日本の宗教系大学ではどのような宗教倫理が教えられているのか
—キリスト教系大学の宗教科目シラバスのテキストマイニングから—

□ 公開パネル(入場無料・申込み不要) 10:45~12:30 「宗教」の自由を再考する

登壇者	宮本要太郎 (関西大学)
	井上善幸 (龍谷大学)
	末村正代 (南山宗教文化研究所)
	古荘匡義 (龍谷大学)
司会	澤井義次 (天理大学名誉教授)

□ 公開講演(入場無料・申込み不要) 14:00~16:30

悟りと自由—鈴木大拙の論をてがかりに—
水野友晴 (関西大学)

宗教倫理学会第25回学術大会テーマ 宗教の「自由」を再考する

Reconsidering Religious "Liberty/Freedom" : Focusing on Contemporary Japan

公開講演 14:00～16:30

悟りと自由—鈴木大拙の論をてがかりに— 水野友晴（関西大学）

講演概要

鈴木大拙は、その著作の多くで独特の自由論を展開している。その基本的な文脈は、東洋思想には西洋近代文明が採用しているものとは異なる「自由」概念があり、これを再評価することは現代生活における困難さの克服や人間性の回復につながるというものである。

したがって大拙の自由論は西洋近代文明に暮らすわれわれの生ということ強く意識したものであり、視野を東洋世界の古典内に限るものではない。また、これを古典の訓詁注釈の類として扱うことにも慎重である必要がある。むしろ彼の自由論は、東洋の古典における「自由」概念を現代生活の視点からプラグマティックに応用しようというものであり、それは「自由」概念の現代への移植の試みとして見る事ができると同時に、「自由」概念に現代生活を照射して相対化する試みとしても見る事ができる。

大拙によれば、東洋の「自由」概念は「悟り」と内面的に結びついている。しかし大拙の自由論が現代生活を相対化して見る試みであるならば、そこで語られる「悟り」も単なる語釈として捉えられるべきではなく、現代に暮らすわれわれに「悟ること」を促す実践的な意図から発言されていると見るべきであろう。このような意図から大拙自由論の文脈と、そこにおける「自由」と「悟り」の内的結びつきについて探ってみることにしたい。

講師紹介

水野友晴（みずの・ともはる）

関西大学文学部教授。1972年愛知県生まれ。1996年京都大学文学部哲学科（宗教学専修）卒。2001年、京都大学大学院文学研究科（思想文化学専攻、日本哲学史専修）研究指導認定退学。関西大学文学部准教授などを経て、2022年より現職。

京都大学人文科学研究所共同研究員、国際日本文化研究センター共同研究員、公益財団法人日独文化研究所監事などを歴任。

博士(文学)(東北大学)。専攻は日本哲学・日本思想史・比較思想。

主要著作に、『「世界的自覚」と「東洋」—西田幾多郎と鈴木大拙』（こぶし書房、2019年）、『共同研究 共生：そのエトス、パトス、ロゴス』（こぶし書房、2020年、共著）、『環境と資源・エネルギーの哲学』（『未来世界を哲学する』第1巻、丸善出版、2024年、責任編集）など。

電車でのアクセス

➤ 阪急電鉄千里線「関大前」駅下車、すぐ（正門までは徒歩約5分）

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

➤ JR「新大阪」駅から地下鉄Osaka Metro御堂筋線「なかもず」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車（この間約30分）

大阪（伊丹）空港からのアクセス

➤ 大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車（この間約30分）



※ 赤の矢印で示した建物（地図の14番）の4階です。正門に入った後、最初の角を左に曲がって坂（通称法文坂）を登ってください。右手の総合図書館（地図の8番）、尚文館（地図の6番）を通過すると、人工芝の広場（地図の35番「あすかの庭」）が見えますので、その広場を横切ってD棟においでください。